

1. 開催日時・出席者等

- 日時：平成 30 年 12 月 13 日（木）14:30～16:30
- 場所：日本橋ライフサイエンスビルディング（東京都中央区）
- Pitch テーマ：日本橋から起こす、ライフサイエンス系スタートアップのエコシステムの展望
- 招へい者：別紙参照
- 出席者：平井国務大臣
大坪次長（健康・医療戦略室）、石井企画官（科技）
寺井秘書官、西山秘書官、柴山秘書官

2. 招へい者からの説明

- AI による画像診断支援や問診支援、ゲノム医療、血栓除去ステント、ロボット義足、オンライン診療、治療アプリなど、多種多様なライフサイエンス系スタートアップが、グローバル展開も見据えて事業を展開している。
- また、彼らを支援するベンチャーキャピタル・アクセラレータ等も日本橋に集積しつつあり、ライフサイエンス系スタートアップの一大拠点となる可能性がある。
- 2019 年 2 月には、同ビルの地下において、ライフサイエンス領域のスタートアップのためのシェアラボ/ウェットラボが開業する予定であるなど、新たな取り組みにも着手している。

3. 質疑応答・議論

以下の意見・提言があった。

- 医療機器等の認証プロセスが、改善されてきてはいるが、まだ他国と比べて遅いのが課題。
- 医師や医療機関が、画像データを活用しようとするインセンティブの構築を、国として支援してほしい。また、医療情報のクラウド化を進めてほしい。
- データ利活用のチャンスを、大手企業だけではなく、スタートアップにも広げてほしい。
- 海外との競争力を担保するためにも、AI の医療等への活用に対しても、保険点数をつけてほしい。

- 民間 VC 等が資金を出しづらい研究や事業の初期段階において、経産省や AMED の支援があったことは非常に助かった。
- 日本では、他国と比べてライフサイエンス領域におけるシードマネーが圧倒的に足りない他、事業化の段階でリスクを取って支援・伴走できる主体が少ないことが課題。国としては、短期的成果を求めない基礎研究（特に若手の研究）への支援を拡充しつつ、成長段階では民間資金がうまく出せるように連携した施策を展開するのが良いのではないか。
- 創業期の医療領域への政策融資が断られるケースがあり、改善してほしい。
- 医療機器認証等の、事業に必要なプロセスに知見を持つ人材が大企業内には存在しているが、スタートアップに加わることはまだ少ないため、人材の流動化を促進する施策を推進してほしい。
- 登記手続きや設立そのものが複雑であり、士業への依頼などの副次的コストも大きい
ため、シンプルにしてほしい。
- 資金調達や上場をゴールとして囿り立てないことも重要。調達額の多寡等にかかわらず、リスクをとってチャレンジしている人を応援できる制度にしてほしい。

(了)

招へい者：

[スタートアップ]

多田 智裕 株式会社 AI メディカルサービス 代表取締役会長・CEO
豊則 詩帆 エルピクセル株式会社 医療事業本部 General Manager
沖山 翔 アイリス株式会社 代表取締役、医師
久保 恒太 UBIE 株式会社 共同代表取締役 エンジニア
西村 邦裕 株式会社テンクー 代表取締役社長 CEO
正林 和也 株式会社 Biomedical Solutions 代表取締役
孫 小軍 BionicM チームリーダー 情報理工学博士
豊田 剛一郎 株式会社メドレー 代表取締役医師
宮田 尚 株式会社キュア・アップ 最高執行責任者 (COO)

[支援者]

木村 廣道 株式会社ファストトラックイニシアティブ 代表取締役
マネージングパートナー 薬学博士
野口 昌克 株式会社日本医療機器開発機構 事業開発シニアディレクター
博士 (生命科学)
伊藤 毅 Beyond Next Ventures 株式会社 代表取締役社長
津田 真吾 株式会社インディージャパン 代表取締役 テクニカルディレクター
村田 祐介 インキュベイトファンド株式会社 General Partner
曾山 明彦 一般社団法人 Life science Innovation Network Japan 理事兼事務局長
末松 誠 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 理事長